内藤氏 6 代の藩主は、平藩の確立を図るとともに各村々の新田開発、産業の振興、社寺の再建修復、など文化の振興にも尽した。楢葉郡の旧村も内藤氏支配の時代に新田開発や用水路・溜池の築造、改修が行われた。

幕領支配の時代にも名代官が就任している。領内にバレイショの栽培を普及して薯代官と言われた梁川･小名浜代官の中村清太夫（天明年間 1781～1788）、農村復興の実績で知られる桑折・塙代官の寺西封元（重次郎ともいう、寛政年間 1789～文化年間 1817）、天保の飢饉の折幕命を待たずに郷倉を開き農民を救った浅川・桑折・小名浜代官の島田帯刀（天保年間 1830～嘉永年間 1853）が知られている。

中世・近世に於いて楢葉地方を開いた支配者を挙げたが、村々は名主・庄屋など村方役人で村の自治が維持されてきた。

明治維新後の村々も目まぐるしく変遷するが、明治 10 年代の県会議員に松本伝四郎（前原 1 期 6 年）、松本　伝（伝四郎の子、9 期 17.6 年）、橋本英馬（北田 5 期 7.2 年）らが当選し県政や村政の確立に大きな実績を残した。

大正時代には小松幹夫（井出 1 期 4 年）が県会議員に当選し、昭和 22 年 4 月から昭和 26 年 4 月まで石川浅次郎（山田岡）も当選している。

明治 22 年 4 月町村制施行以降、昭和 31 年 9 月楢葉町誕生まで、木戸村長 22 名、竜田村長 21 名が就任し楢葉町の基礎を築いた。

（松本松寿）